

# μολχεία モイケイア

知っておきたいキリスト教のことば (46)

姦淫 かんいん

姦淫という言葉は、あまり日常生活の中では使わないかもしれませんが。十戒には、「姦淫してはならない」と書いてありますが、これは一体どういう意味でしょうか。

文字通りには、「配偶者がいる男性、または女性が、配偶者以外の異性と通じること」です。現代的に言い換えると、「不倫」や「浮気」という言葉に近いのかもしれませんが。

イエス様の時代には、姦淫をした人は十戒に背いたとして、死罪にされました。今のわたしたちはたとえ姦淫をしたとしても、命まで奪われることはあまりありませんが。

その背景には、イスラエルと神さまとの関係もあったようです。旧約聖書の中で、イスラエルは神の花嫁として描かれているのですが、他の神さま(異教の神さま)を拝むことを姦淫とみなし、厳しく禁止していました。つまり姦淫はとんでもないことだったのです。

そしてイエス様は、この「姦淫」について、次のように言われています。「みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである」と。

そして他の場面では、姦淫の現場を押さえられた女性をどうするべきか、宗教指導者に問われた時に、イエス様はこう答えました。

「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」。

これを聞いた指導者たちは、持っていた石を下に置き、みんな去って行ったそうです。誰も心の中で、罪を犯していたことに気が付いたのです。

わたしたちは姦淫の罪を犯していないでしょうか。

次回は「感謝」です。お楽しみに。



「イエスと、姦通の罪を犯した女」

ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ  
(1727～1804年)

殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。隣人に関して偽証してはならない。隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。(出エジプト記 20章13～17節)

